

1. 評価報告概要表

作成日 平成 年 月 日

【評価実施概要】

事業所番号	1072300203
法人名	有限会社若大河
事業所名	グループホーム吉井マリル
所在地	多野郡吉井町吉井川768-1 (電話) 027-387-4610

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年7月30日

【情報提供票より】(20年 7月 22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 10人, 非常勤 4人	常勤換算 10人

(2) 建物概要

建物構造	平屋造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	工作費: 月300円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	又は1日		

(4) 利用者の概要(7月 22日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	7名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.8歳	最低	67歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉井中央診療所・松本医院・西毛病院・設楽歯科・公立藤岡病院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、上信越道吉井インター南西の車で3分程の所で、隣接して保育園と近くに中学校がある閑静な住宅街にある。門から建物までは広い庭となっており、一隅には樹木や草花が植えられ、家庭菜園で草むしりをする人、庭の斜面を利用して散歩する人、夕方から夜間にかけて必ず歩く人等建物から庭へ自由な出入りが可能となっている。家族との絆を大切にしたい運営に心がけ運営推進会議も全家族が出席できるよう意を用い、親族間のトラブル、認知症についての質問、薬依存の相談、年金や健康保険証の取扱いなどホーム運営以外の相談事に応じている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題である、「町との連携」については、地域交流会の開催や入居者の定期健康診断等について相談し指導を受けている。また、「職員を育てる取り組み」については、介護支援センターの年間研修計画や地区医師会の研修計画に則り、参加希望者を募り、勤務年数に応じた研修を受けている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価及び外部評価の結果をカンファレンスで話し合い、自己評価は管理者がまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>偶数月の日曜午後に開催し、全家族が出席できるよう午前中はクリスマス会等の季節毎の行事を組み込んでいる。会議では事業報告や外部評価の結果等を報告し、地域の人々との交流の在り方について意見交換を行い、地域の人達との交流の場として地域交流会を開催することとし、輪投げやカラオケを行っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>行事の開催や日常生活状況等を「マリル通信」で報告すると共に、病気等の緊急事項は電話連絡している。不満や苦情等については、面会時や電話連絡の時に心配事や不満・改善点を積極的に聞くよう努めている。なお、家族の要望により、全職員の紹介文と顔写真を居間兼食堂に掲示するなど意見を取り入れた取り組みをしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>「マリル通信」を、回覧板で廻している。町民ホールで揃いのユニホームを着て歌を発表したり、町の祭りを見物したり、中学校や隣接保育園の運動会を見学している。運営推進会議での話し合いを基に、近隣の人々と輪投げやカラオケ等の地域交流会を開催すると共に、近くの人から野菜を頂いたり、うどんやおやきの作り方を教えてもらう等地域との交流促進に努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個人を尊重してその人らしい生活を安心して送れるような環境作り」の理念は、発足当初のままである。地域密着型サービスとして地域の人達と顔見知りとなり協力が得られるよう働きかけを行っているが、制度改革に伴う理念の見直しは行っていない。	○	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、理念の見直しを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、理念を理解し共有している。言葉かけや食事・排泄介助等の日々入居者に関わる際に、理念を具体化していくことを意識して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「マリル通信」を、回覧板で廻している。町民ホールで揃いのユニホームを着て歌を发表或、町の祭りを見物したり、中学校や隣接保育園の運動会を見学している。運営推進会議での提言を基に、近隣の人々と輪投げやカラオケ等の地域交流会を開催している。近隣の人から野菜を頂いたり、うどんやおやきの作り方を教えてもらう等地域との交流促進に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の結果は、カンファレンスで話し合い、自己評価は、管理者が取りまとめている。前回評価の改善課題である「町との連携」については地域交流会や入居者の定期健康診断等について相談し、指導を受けている。また、「職員を育てる取り組み」は、介護支援センターの年間研修計画に沿った研修を受けている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の日曜午後に開催し、全家族が出席出来るよう午前中はクリスマス会等の季節行事を組み入れている。日曜開催のため、町職員の出席は難しい状況である。会議では、事業報告や外部評価結果等を報告し、地域の人々との交流の在り方について意見交換を行い、交流の場として地域交流会を開催することとし、輪投げやカラオケを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の人々との交流会の開催方法、重度化した際の支援や定期健康診断を嫌がる入居者の処遇等について相談し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事の開催や日常生活状況等を「マリル通信」で報告すると共に、病気等の緊急事項は電話連絡を行っている。金銭管理は立替金処理し利用料請求時に請求レシートを送付している。職員の異動は、運営推進会議の席上で紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情等は、入居契約時に国民健康保健組合連合会や町の窓口等について説明すると共に、面会時や電話連絡の際に心配事や不満・改善点等を積極的に聞くよう努めている。なお、家族の要望により職員全員の紹介文と顔写真を居間兼食堂に掲示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	サービスの均質な提供と全職員と入居者が顔馴染みとなるよう、ユニット毎の職員配置をしない勤務体制を取っている。新規採用職員には、入居者への対応のポイントや過度な個人対応をしない等の指導をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護支援センターの年間研修計画や地区医師会の研修計画に則り、参加希望を募り、勤務年数に応じた研修を受講している。研修修了後は、月2回開催されるカンファレンスで報告すると共に介護等に関する勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県地域密着型サービス連絡協議会の大会や職員相互派遣研修に参加し、情報交換を行うと共に見直しや振り返りを行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人が必ず見学し、時には体験入居や入居後ホームでの生活に慣れるまで家族が宿泊するなど相談しながら一日も早く馴染めるよう支援している。また、入居前の家庭や入院先を訪問し、入居者の生活歴等を把握している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員は、キュウリモみ、干し柿や芋がら作りを入居者から教えてもらい一緒に作ったり、洗濯物をたたんだり、花の植え時や管理の方法等の知恵を教わりながら育てたりしている。入居者から職員の名前を呼んで「ありがとう」の言葉かけなどをいただき、励みにして日々の支援に取り組んでいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に家庭等を訪問し、生活歴や職歴等を調査し、家族や本人の希望等を聞き、入居者の意向把握に努めている。意思表示の困難な人は、日常生活における行動観察や会話中の顔の表情から真意を推測し検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、入居者一人ひとりについての介護記録、介護日誌、連絡ノートの記録や家族や職員の意向等を反映して課題分析を行い、対応方針を取り入れ作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月毎に見直しを行っている。その他に、骨折等の事故やヒヤリハットの事例に対して、家族や職員の意向を反映し、課題分析と対応方針を取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医が町外の場合は家族送迎が原則であるが、町内の場合は職員が送迎している。また、入院に際しては、家庭の状況により家族から承諾書をもらい、入院手続きを代行すると共に、付き添いや下着等の洗濯を行ったり、面会に行くなど支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向にそったかかりつけ医の継続受診が原則である。ホームの協力医には、2週間毎の往診をお願いし、入居者の終末期ケア等の相談を行い適切な指導を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りは、家族の意向に沿って行うこととしている。医師や看護師の指導を受け対応方針を定め、運営推進会議で説明している。なお、過去に1人の看取りを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の守秘義務について、職員の署名捺印をとっている。介護計画等の書類は、記録室に保管し、記録室で見ることとしている。言葉使い等の接遇は、日々の介護の中で注意し、その場で正すようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩に行きたい人や行きたくない人、食事の遅い人、衣服の色やレクリエーションに好き嫌いのある人等何をしたいか聞き、無理強いすることなく、一人ひとりの意向に沿った支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	納豆や魚が嫌い等の入居者の好みや意向を取り入れた献立作りをしている。また、入居者が作った芋がら料理、職員と一緒に作った家庭菜園の野菜を使用した料理を提供したり、焼きそばやバーベキュー等の料理レクリエーションを適宜取り入れるなど楽しい食事ができる雰囲気づくりを大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則週2日としているが、希望者には何時でも入れる体制にある。入浴は無理強いすることなく、入浴を嫌う人には時間をずらしたり、声かけをして支援している。また、菖蒲湯や入浴剤を使用して気持ちよく入浴できるよう支援している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しと洗濯物たたみ、下膳やテーブル拭き、干し柿や芋がら作り等入居者の経験を活かした役割を担ってもらっている。地域の人達も参加して行われる輪投げやカラオケ、家族と一緒に庭で食事をする「マリル祭り」、花見や紅葉狩りなど季節に合わせたドライブ等楽しみ事や気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	高齢化に伴い体力の低下をきたし、無関心や無気力となっていくので、日常的な散歩の他に、初詣、桜やコスモス見物、柿狩り等の行事には関心が向くよう数日前から提案し、コミュニケーションを図り、出来るだけ戸外に出るよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や非常口には鍵はかかっているが、門扉はインターホンで訪問を告げ開閉をしている。なお、医師や家族・入居者等は門扉を開閉できる方法を承知している。	○	入居者の自由な暮らしを支え、地域の人達が来やすい雰囲気作りのためにも、入居者の安全も考慮しつつ門扉に鍵をかけないよう工夫されることを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施しており、今年の秋は消防署の指導の下に消火・避難訓練を行うこととしている。また、隣接保育園と災害時の対応の在り方を話し合うと共に、災害時には地元消防団の協力が得られるようお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援の必要な人のみ食事摂取表と水分摂取表を記録し、受診時に医師に提示し指導を受けている。また、医師の指示により高カロリージュースを提供するなど医師との緊密な連携を保ち、入居者の健康管理に留意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭先から玄関までの通路の両側は、植物や草花が植えられている。居間兼食堂は、テレビやカラオケセットが配置され、天井の扇風機が回り、廊下にはソファが置かれ入居者一人ひとりが気持ちよく過ごせるよう配慮されている。浴室、洗面所、台所等は、清潔に保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ダンス、テーブルや椅子、テレビが置かれ、家族の写真や人形が飾られている。家族や入居者の希望により畳の敷かれている部屋もあり、入居者が安心して過ごせるよう配慮されている。		